

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
浜松情報専門学校	昭和59年12月24日	松本 文晴	〒430-0929 浜松市中区中央3丁目10-31 (電話)053-450-6550																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人 静岡理工科大学	昭和27年3月31日	橋本 新平	〒420-8538 静岡市葵区相生町12-18 (電話)054-200-3333																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
商業実務	商業実務専門課程	医療事務科	平成23年文科科学 省告示第166号																							
学科の目的	医療事務職員にとって必要な知識と技能は「接客・マナー」「レセプトや電子カルテの処理」「介護・福祉」に関するものがあります。このような知識・技能の習得を通して社会弱者に対する思いやりの心を持って、様々な医療・福祉の職に対応できる人材の育成を目的とします。																									
認定年月日	平成27年2月17日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時間又は総単位数	講義	演習	実習	実験																				
	2年	2040時間	1020時間	810時間	210時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
40人	33人	0人	6人	20人	26人																					
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末に試験を行い平常の成績と合わせて、60点以上を合格とする。																					
長期休み	■学年始: 4月1日～4月10日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月20日～1月10日 ■学年末: 3月21日～3月31日		卒業・進級条件		1.必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。 2.総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。 3.査定日現在で学納金に未納がないこと。																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施している。		課外活動		■課外活動の種類 ハイキング ■サークル活動: 無																					
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 聖隷福祉事業団 浜松赤十字病院 十全記念病院 等 ■就職指導内容 1年次から就職活動の為に準備を開始、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施している。 ■卒業者数 : 22 人 ■就職希望者数 : 22 人 ■就職者数 : 22 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 進学者数 0名  (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療事務検定試験</td> <td>③</td> <td>22名</td> <td>22名</td> </tr> <tr> <td>介護報酬請求事務技能検定試験</td> <td>③</td> <td>15名</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td>調剤報酬請求事務技能検定試験</td> <td>③</td> <td>22名</td> <td>21名</td> </tr> <tr> <td>秘書技能検定試験</td> <td>③</td> <td>22名</td> <td>22名</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するものを記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	医療事務検定試験	③	22名	22名	介護報酬請求事務技能検定試験	③	15名	11名	調剤報酬請求事務技能検定試験	③	22名	21名	秘書技能検定試験	③	22名	22名
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
医療事務検定試験	③	22名	22名																							
介護報酬請求事務技能検定試験	③	15名	11名																							
調剤報酬請求事務技能検定試験	③	22名	21名																							
秘書技能検定試験	③	22名	22名																							
中途退学 の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成29年4月1日時点において、在学者33名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者33名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学 の主な理由 中途退学者 該当なし ■中退防止・中退者支援のための取組 担当教員が遅刻・欠席が増えた学生に声掛け、面談をしている。																									
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度有 特待生:授業料全額免除 準特待生A:授業料の50%免除 準特待生B:授業料の25%免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科の ホームページ URL	<a href="https://www.hamasen.ac.jp/">https://www.hamasen.ac.jp/</a>																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文科科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の正規職員の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

(公財)日本医療保険事務協会が主催する診療報酬請求事務能力認定試験をはじめとする医療系の検定試験取得や、医療事務員として即戦力として活躍できる業界知識習得に必要な教育時間を基に、医療事務業界において必要な技能・知識等に企業ニーズを取り入れるため教育課程編成委員会を開催し、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、カリキュラムおよびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

現場の意見を教育に反映させるため、学校組織内に教育課程編成委員会として位置付ける「教育課程編成委員会」を「浜松情報専門学校 教育課程編成委員会規程」に則り設置しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
田村さゆり	ニチイ学館 浜松支店	平成30年2月1日～ 平成31年1月31日	③
正木 光國	日本医療事務協会	平成30年2月1日～ 平成31年1月31日	①
小澤 稔	浜松情報専門学校 教務課長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	
荻原 啓孝	浜松情報専門学校 医療事務科教諭	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催) 実践専門  
課程

年2回 (7月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 平成29年 7月28日 15:00～16:40

第2回 平成30年 3月23日 15:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成30年3月の編成委員会にて、次のような意見が出された。

“浜情のビジネス系科目はとても重要であり、資格取得が多いだけでなくこのようなマナー科目が大事【田村委員】”

上記意見を元に、医療現場で役立つ窓口業務・患者対応・秘書業務等の対応力向上に向け、マナーに関する4科目「秘書概論」「秘書実践」「コミュニケーション技法」「医療秘書」について、従来の授業内容に加えより多くのロールプレイングを取入れより実践的な授業内容に変更しマナー教育の充実を図った。

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

地域に密着した医療機関(病院・診療所)であって、過去に生徒の受入れ実績がある病院や卒業生が活躍する病院を選定している。また窓口(受付・会計)業務のみならず、カルテ庫や病棟など広範囲に渡り、医療事務の業務が実習可能な医療機関を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本校の担当教員が連携先病院の担当者と連絡をとり実習期間・内容・および評価方法を調整した後、連携先病院で実習を行う。連携先院内での実習は担当指導員の協力体制のもと実施し、実習期間終了時に学習成果の評価を踏まえ、本校担当教員が成績評価・認定を行う。

授業実施期間中は本校担当教員が情報交換の為の巡回を行い、円滑に目標とする成果の達成を図る。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
病院実習	医療機関の協力を得て、これからの医療人を育成することを目的に実施する。病院の実際業務を幅広く体験し、医療人としての心構えを養う。	総合病院 聖隷浜松病院 総合病院 聖隷三方原病院 JA静岡厚生連 遠州病院 など

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 「浜松情報専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るための「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

(2) 研修等の実績  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 研修名「医事コンピュータ技能検定研修会」(連携企業等: 一般社団法人 医療秘書教育全国協議会 医療情報科学研究所 林 雅子先生)  
 期間: 2017年10月22日(日) 13:00~16:30 対象: 医事コンピュータ技能検定 担当者教員向け  
 内容: 「検定試験問題の傾向と対策」(領域 I 医療事務)

② 指導力の修得・向上のための研修等  
 研修名「在校生、卒業生の大規模調査から考える今後の専門学校教育指導のありかた」(連携企業等: 浜松市発達相談支援センター 笹澤聡介)  
 期間: 2017年8月21日(月) 9:30~12:30 対象: 法人内専門学校教員向け  
 内容: 発達障害児の理解と対応について  
 研修名「発達障害の理解と対応」(連携企業等: ベネッセ教育研究所 高等教育研究室 佐藤昭宏)  
 期間: 2017年8月21日(月) 13:30~16:30 対象: 法人内専門学校教員向け  
 内容: 発達障害児の理解と対応について

(3) 研修等の計画  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 研修名「医事コンピュータ技能検定研修会」(連携企業等: 一般社団法人 医療秘書教育全国協議会 主催)  
 期間: 2018年5月13日(日) 13:00~16:30 対象: 医事コンピュータ技能検定 担当者教員向け  
 内容: 「診療報酬改定に伴う医事コン実技演習と指導法」「DPCシステムの実技演習と指導法」

② 指導力の修得・向上のための研修等  
 研修名「IT手法を利用した教授法の変遷と運用中の最新手法」(連携企業等: 静岡理工科大学 情報学部 水野 信也 教授 )  
 期間: 2018年8月22日(水) 9:30~12:30 対象: 法人内専門学校教員向け  
 内容: Office365の授業への活用、授業動画の活用と効果、動画作成実習  
 研修名「専門学校教員の為の教授法Ⅱ」(連携企業等: 静岡大学教育学部 塩田 真吾 准教授 )  
 期間: 2018年8月22日(水) 13:30~16:30 対象: 法人内専門学校教員向け  
 内容: アクティブラーニングに向けて、どう「問い」をつくるか

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として実施している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	基準(1) 教育理念、目標
(2) 学校運営	基準(7) 学校運営
(3) 教育活動	基準(2) 教育活動
(4) 学修成果	基準(3) 教育成果
(5) 学生支援	基準(4) 学生支援
(6) 教育環境	基準(5) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ
(8) 財務	基準(7) 財務
(9) 法令等の遵守	基準(7) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献
(11) 国際交流	基準(8) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

資格取得や就職が順調であり、着実に教育成果がでていると感じるが、入学者の増加につながらないとの意見があった。募集対象学生や在校生に対して、めざす職種本来の仕事の魅力、やりがい、憧れを抱いてもらうよう、教員自らの実体験をもとに学校説明や授業展開している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
山崎 正太郎	社会福祉法人 花の園会 たんぽぽ保育園 園長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
小野 哲	小野経営科学研究所 代表	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
田中 宏和	一般社団法人システムコラボ・マネジメント 理事長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
竹本 洋平	公益財団法人 静岡県予防医学協会 健康増進課	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
金岩 洋介	Recesin株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
小杉 雅志	浜松情報専門学校 同窓会 会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	卒業生
山崎 文彦	松江町自治会	平成30年4月1日～平成31年3月31日	地域住民
大橋 忍	浜松情報専門学校 後援会 会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) ( )

URL: <https://www.hamasen.ac.jp>

公開年月日: 平成30年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動及び学校運営について理解を求めため、県内就職先企業関係者を本校に招き、学校の説明会を実施している。詳細については、学校評価書及び学校情報をホームページ上で公開していることを伝えている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	設置コース、専門課程、修業年数、募集定員、学習時間数、入学者数、
(3) 教職員	教職員数、組織図、研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援

(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備、学校行事、各種コンテスト、大学との連携プロジェクト、選抜
(6) 学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8) 学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ(受入学科、入学選考方法、出願資格)
(11) その他	その他の教育活動(附帯事業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL:<https://www.hamasen.ac.jp>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 医療事務科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、ハイキング、ビジネスショー見学等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1通	30	1		○		○	○			
○			就職活動準備講座Ⅰ	社会人としての知識とマナーを身につけ、就職活動への意識を高める。	1後	30	1		○		○	○			
○			ワープロ・表計算基礎	一般常識ともいえるワープロ、表計算。「使える」ではなく「使いこなせる」ことを目標に、さまざまな機能を学習し、日本語ワープロ検定や表計算検定試験に挑戦する。	1通	60	2		○		○		○		
○			プレゼンテーション基礎	コミュニケーションの手段である重要な点を理解し、それらの技法を身につける。さらに効果的なプレゼンテーションの方法である、パワーポイントの使い方を学習する。	1前	30	1		○		○	○			
○			国際コミュニケーションⅠ	グローバル化が進む中、外国人が医療機関を利用するケースも増えてきている。医療事務員として最低限必要な窓口英会話を、実践的に学習する。	1後	30	2	○			○		○		
	○		選択科目Ⅰ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	1前	30	2			○	○		○		
	○		選択科目Ⅱ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	1後	30	2			○	○		○		
○			保険請求事務Ⅰ	保険請求のための診療報酬の算定を迅速かつ正確に行う技能を修得する。あわせて、医療保険制度のしくみと役割についても学習する。	1通	150	10	○			○		○		
○			医療秘書	病院組織や医療現場に特有な医療・医学や医療事務の基礎的知識を学習し、医者や看護師が行う医療行為を事務的に補助するための知識を修得する。	1通	60	4	○			○		○		
○			基礎医学論	医療チームの一員としての医療秘書にとって基本的な医学知識、そのなかでも解剖生理学、からだの仕組みがどうなっているのかを理解する。	1通	60	4	○			○		○		
○			ベビーシッター講座	幼児の食事と栄養、発達心理、急病とケガの応急手当てなどの知識を身につけ、ベビーシッターの資格を目指す。	1前	60	4	○			○		○		
○			救命救急講座	日常生活における事故防止、手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動、止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を学ぶ。	1前	30	2			○	○		○		

○		医事コンピュータⅠ	医事コンピュータシステムを活用し、医師の書いたカルテから診療報酬算定の対象となる医療行為を漏れなく算定し、誤りのない正確なレセプトの作成法を学習する。	1通	60	2		○	○	○					
○		病院実習	医療機関の協力を得て、これからの医療人を育成することを目的に実施する。病院の実際業務を幅広く体験し、医療人としての心構えを養う。	1後	60	2			○	○		○	○		
○		医療業界研究	高齢化社会や医療技術の向上などにより、医療分野は大きく変化してきている。そのような今日の状況を理解しながら、病院における医療行為や事務的業務の基本や常識について学ぶ。	1前	30	2	○			○					
○		コミュニケーション技法Ⅰ	ビジネス会話の基本である言葉づかいから、相手に好印象を与えるための聞く態度・話す態度、仕事の基本である報告・連絡・相談などの基礎的なコミュニケーション能力を養う。	1前	30	2	○			○				○	
○		秘書概論	秘書として必要な知識と技能を総合的に習得することにより、秘書の仕事の実態と、これからの秘書の在り方について十分理解する。	1前	30	2	○			○				○	
○		秘書実践	秘書概論で学んだ知識が、日常生活の中で実践的に活用されてきたかを確認しながら、実習を交え基本的マナーの定着を図る。	1通	60	4	○			○				○	
○		パソコンリテラシー	ノートパソコンの初期導入、各種ソフトのインストール、設定を行い、パソコンの基礎知識を学習と、SNS利用の際に注意すべく情報リテラシーについて学習する。	1前	30	1		○		○				○	
○		マイクロソフト対策講座Ⅰ	世界標準であるオフィスソフトの中で、Wordについてより多くの機能について学習する。マイクロソフトオフィススペシャリスト試験（Word）合格を目指す。	1通	60	2		○		○				○	
○		メイク・ファッション	ビジネスマナーの一部として、それぞれの場面に応じたメイクやファッションについて理解を深め、自ら表現できるようにする。	1後	30	1			○		○				○
○		ペン習字	ビジネス場面での文書作成はワープロがメインではあるが、実際には今でも手書きでの文書作成の必要性は残っている。このような場面で活かせる書き方を習得する。	1前	30	1			○		○				○
○		コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、終業式、防災訓練、球技大会、ハイキング、ビジネスショー見学等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。また修学旅行を実施する。	2通	60	2			○		○				○
○		就職活動準備講座Ⅱ	社会人としての知識・マナーを身に付け、厳しい就職戦線を勝ち抜くための準備を目標とする。この科目を通して本格的な就職活動への意識を高める。	2前	30	1			○		○				○
○		国際コミュニケーションⅡ	外国人が医療機関を利用するケースも増え、浜松地区ではポルトガル語の対応も必要である。医療事務員として最低限必要な窓口ポルトガル話を、実践的に学習する。	2後	30	2	○			○					○
	○	選択科目Ⅲ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	2前	30	2				○	○				○
	○	選択科目Ⅳ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	2後	30	2				○	○				○

○		保険請求事務Ⅱ	診療報酬制度は、厚生労働省より改正が行われる。1年次に学習した内容の改正点を重点的に学習し、新制度への対応を図る。	2前	30	2	○		○		○	
○		保険請求事務Ⅲ	より実務レベルを想定した診療報酬計算を身に付ける。また現場職員のスキルアップの位置づけとされている、診療報酬請求事務能力認定試験の合格を目指す。	2前	60	4	○		○		○	
○		実践介護講座	医療機関の多くの利用者は高齢者である。不自由な患者さんには、待合室から診察室までの介助が必要である。実践的に体の不自由な方や、お年寄りの介助について学習する。	2前	60	4	○		○		○	
○		手話	手話は聴覚障害者にとって大切なコミュニケーション手段である。聴覚障害者が医療事務員から手話で話しかけられたら安心感が生まれる。簡単な挨拶から手話を習得していく。	2後	30	2	○		○		○	
○		医事コンピュータⅡ	1年次で修得した外来診療の知識の上に、入院に伴う算定処理についての知識を身につけ、上位級の検定試験に合格することを目指す。	2前	60	2		○	○		○	
○		デンタルアテンド	歯科における院内業務全般について、衛生管理から治療器具についての理解、歯牙・口腔の知識などアシスタント業務に必要な知識を修得する。	2後	90	6	○		○		○	
○		調剤事務	調剤保険薬局に必要な、調剤報酬請求事務等の知識と調剤報酬請求書の作成を学習する。処方箋の取り扱いや、薬の説明など実践的に学習する。	2前	30	2	○		○		○	
○		ケアクラーク	介護事務職員として身につけておくべき社会福祉制度や介護報酬請求事務などに関する知識と技能を学ぶ。	2後	60	4	○		○		○	
○		ドクターズクラーク	診療録や各種診断書・証明書・処方箋などの医療文書の作成など、従来医師が行っていた業務を医師の指示のもとで行う業務の知識を学ぶ。医師事務作業補助者の資格を取得する。	2前	90	6	○		○		○	
○		電子カルテ	電子カルテシステムでは、診療記録は受付や会計・検査室・資料室などで即座に閲覧できる。これらのシステムの基礎知識を学ぶとともに基本的な操作方法を習得する。	2後	30	1		○	○		○	
○		コミュニケーション技法Ⅱ	1年次の学習を基礎に、心理学の論理・技術を活用し、お客様対応・クレーム対応の演習を行う。	2前	30	2	○		○		○	
○		マイクロソフト対策講座Ⅱ	世界標準であるオフィスソフトの中で、Excelについてより多くの機能について学習する。マイクロソフトオフィススペシャリスト試験(Excel)合格を目指す。	2通	60	2		○	○		○	
○		ホームページ制作	情報発信の基本となるHTMLについて学習し、ホームページの作成方法を習得する。より視覚的に印象の残るホームページの作成を学習することで、病院ホームページの更新作業などに活用できる。	2後	30	1		○	○		○	
○		データベース	データベースの基本的な機能は、「データ蓄積機能」と「データ抽出機能」である。データベースの中で現在もっともよく使われているリレーショナルデータベースを学習する。	2前	30	1		○	○		○	
○		ビジネス文書技法	ワープロを使いこなして、文字・記号・画像入力・編集・加工などを活用したビジネス文書の作成法を学習する。また文書デザイン検定試験に挑戦する。	2前	30	1		○	○		○	



○		アロマセラピー	心と健康のバランスを保つためにも有効なアロマセラピーの知識を身につけ、それぞれの職場における職場環境などに配慮できるように知識を身につける。	2前	30	1		○	○		○
○		カラーコーディネート	色彩学の基礎を学び、ビジネスの場面や自分に合った色を理解するとともに、待合室の雰囲気づくりなど活用する知識を身につける。	2後	30	1		○	○		○
○		卒業研究	2年間の学習成果をまとめるために、グループ毎に最新医療動向などについて調査・研究を行う。まとめた成果の発表会を実施する。	2後	60	2		○	○		○
合計				45	科目		2,040	単位時間(107単位)			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
全科目の成績評価において不可の評価(評価点60点未満)がなく、年間出席時限数が年間消化時限数の85%以上であり学納金未納でないこと。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	20週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
浜松情報専門学校		昭和59年12月24日	松本 文晴		〒430-0929 浜松市中区中央3丁目10-31 (電話) 053-450-6550		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日	橋本 新平		〒420-8538 静岡市葵区相生町12-18 (電話) 054-200-3333		
目的	IT業界で活躍できる人材を育てるために、コンピュータの本質を理解することに重点を置くとともに、社会に様々な角度から貢献できるエンジニアを育成するため、より実践的な職業教育を実施することを目的とする。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程		コンピュータ科		平成15年文部科学省告示第14号		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間		2040	1740	1350	150	0
生徒総定員		生徒実員	専任教員数		兼任教員数	総教員数	
80人		78人	6人		24人	30人	
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末に試験を行い平素の成績と合わせて、60点以上を合格とする。		
長期休み	■学年始: 4月1日～4月8日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月17日～1月7日 ■学年末: 3月11日～3月31日			卒業・進級条件	1.必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。 2.総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内でかつ、年間出席時限数が425時限以上であること。 3.査定日現在で学納金に未納がないこと。		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施している。			課外活動	■課外活動の種類 ハイキング ■サークル活動: 無		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 東芝テックソリューションサービス株式会社 日興通信株式会社 株式会社ロジック ■就職率 <sup>※1</sup> : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 93.2% ■その他 (平成29年度卒業者に関する平成30年3月31日時点の情報)			主な資格・検定等	■情報処理技術者試験 ■工事担任者試験 DD3種 ■C言語プログラミング検定 ■ビジネス能力検定 ■Microsoft MTA試験		
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 1% 平成29年4月1日時点において 在学者 79名 (平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において 在学者 78名 (平成30年3月31日入学者を含む) ■中途退学の主な理由 病気療養のため 1名 ■中退防止のための取組 担当教員が遅刻・欠席が増えた学生に声掛け、面談をしている。						
ホームページ	https://www.hamasen.ac.jp						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

コンピュータ技術者の教育要件を基に、システム開発現場において求められる知識・能力について、業界のニーズを取り入れるための教育課程編成委員会を開催し、関係者の意見等を加え、授業科目及び授業時間を編成している。また、教育内容は業界のニーズにマッチするよう常に見直し、カリキュラム及びシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

IT業界の意見を教育に反映させるため、学校組織内に教育課程編成委員会として位置付ける「教育課程編成委員会」を「9. 浜松情報専門学校 教育課程編成に関する規程」に則り設置しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年6月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
鈴木 康祐	株式会社ロジック	平成30年2月1日～ 平成31年1月31日	③
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会	平成30年2月1日～ 平成31年1月31日	①
三上 慎太郎	浜松情報専門学校 教務課長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	
内山 泰伸	浜松情報専門学校 コンピュータ科教諭	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回

(開催日時)

第1回 平成29年 8月22日 14:30～16:30

第2回 平成30年 3月29日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会で指摘のあった、プログラム能力の育成とかい離したネットワークの学習(工事担任者試験)をカリキュラムから削除し、選択科目であったJava言語及びサーバ構築技術(Linux)を必須科目とした新カリキュラムを作成した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学科の育成目標であるコンピュータプログラマ・システムエンジニアとしての基礎知識・基礎技術を習得した上で、業界で採用されている業務システム開発手法とプログラミング技術を使ったシステム開発を行う。販売管理を中心とした基幹業務を対象として、企業からの派遣講師の指導を受けることにより、IT業界での就労に必要な実践的かつ専門的なコンピュータプログラミングに関する技術、知識の向上を図る。現在多く取り入れられているシステム開発手法を実践している企業と連携し、実践的な開発手法の習得を図る。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

本校の教務責任者が企業の担当者と連絡をとり講義・実習・および評価方法を説明した後、講師派遣の依頼を行う。その後、企業から派遣された講師の指導の下、講義・実習の授業を、本校の担当教員との協力体制のもと実施し、授業終了時に学生の学習成果の評価を踏まえ、企業派遣講師と本校担当教員が成績評価・認定を行う。授業実施期間中は毎時開始・終了時に情報交換を行い、円滑に目標とする成果の達成を図る。

(3)具体的な連携の例

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
Windows プログラミング	C++またはC#などでオブジェクト指向とWindowsプログラムの学習をする	一般社団法人 システムコラボ・マネジメント

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針	
「浜松情報専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るための「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
・C#プログラミング基礎	
株式会社富士通ラーニングメディア 主催	2017年11月29日(水)～12月1日(金) 受講者数 1名
【概要】プログラム言語であるC#の文法を学ぶ技術研修である。C#は2年生での学習言語であり、この研修によりC#言語へのさらに深い理解につなぎ、授業の質を向上する。	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
・発達障害の理解と対応	
講師：浜松市発達相談支援センター 笹澤聡介	2017年 8月21日(月) 受講者数 6名
【概要】発達障害児の理解と対応について	
・在校生、卒業生の大規模調査から考える今後の専門学校教育指導のありかた	
講師：ベネッセ教育研究所 高等教育研究室 佐藤昭宏	2017年 8月21日(月) 受講者数 6名
【概要】発達障害児の理解と対応について	
(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
・C#プログラミング基礎	
株式会社富士通ラーニングメディア 主催	予定日：2018年8月 受講者数 1名
【概要】プログラム言語であるC#の文法を学ぶ技術研修である。C#は2年生での学習言語であり、この研修によりC#言語へのさらに深い理解につなぎ、授業の質を向上する。	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
・「学生理解に効果的な教授法」に対する研修を計画中 予定日：2018年8月 受講者数 6名	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として実施している。	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	基準(1) 教育理念、目標
(2) 学校運営	基準(7) 学校運営
(3) 教育活動	基準(2) 教育活動
(4) 学修成果	基準(3) 教育成果
(5) 学生支援	基準(4) 学生支援
(6) 教育環境	基準(5) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ
(8) 財務	基準(7) 財務
(9) 法令等の遵守	基準(7) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献
(11) 国際交流	基準(8) 国際交流
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

資格取得や就職が順調であり、着実に教育成果がでていと感じるが、入学者の増加につながらないとの意見があった。募集対象学生や在校生に対して、めざす職種本来の仕事の魅力、やりがい、憧れを抱いてもらうよう、教員自らの実体験をもとに学校説明や授業展開している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
山崎 正太郎	社会福祉法人 花の園会 たんぽぽ保育園 園長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	企業委員
小野 哲	小野経営科学研究所 代表	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	企業委員
田中 宏和	一般社団法人システムコラボ・マネジメント 理事長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	企業委員
竹本 洋平	公益財団法人 静岡県予防医学協会 健康増進課	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	企業委員
金岩 洋介	Recesin株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	企業委員
小杉 雅志	浜松情報専門学校 同窓会 会長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	卒業生
山崎 文彦	松江町自治会	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	地域住民
大橋 忍	浜松情報専門学校 後援会 会長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) ( )

URL:<https://www.hamasen.ac.jp>

公開年月日:平成30年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動及び学校運営について理解を求めため、県内就職先企業関係者を本校に招き、学校の説明会を実施している。詳細については、学校評価書及び学校情報をホームページ上で公開していることを伝えている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	設置コース、専門課程、修業年数、募集定員、学習時間数、入学者数、卒業者数、取得可能資格、主な就職先
(3)教職員	教職員数、組織図、研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備、学校行事、各種コンテスト、大学との連携プロジェクト、選択授業
(6)学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8)学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ(受入学科、入学選考方法、出願資格)
(11)その他	その他の教育活動(附帯事業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<https://www.hamasen.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程 コンピュータ科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	オリエンテーション、ハイキング等を通して、見聞を広げ協調性を身につける。	1通	30	1	○			○	○			
○			コミュニケーション活動Ⅱ	オリエンテーション、ハイキング等を通して、見聞を広げ協調性を身につける。	2通	60	2	○			○	○			
○			就職活動準備講座Ⅰ	社会人としてのマナーや就職活動に関する基礎知識を学習する。就職活動には欠かせない自己分析や面接指導等を行う。	1後	60	2	○			○		○		
○			就職活動準備講座Ⅱ	各種ガイダンスへの参加や就職活動を行う。	2前	30	1	○			○		○		
○			ワープロ・表計算基礎	「WORD」と「EXCEL」の基礎について学習する。	1通	60	2	○			○		○		
○			プレゼンテーション基礎	コミュニケーション技法を身につけ、効果的なプレゼンテーションソフトであるパワーポイントの使い方を学習する。	1後	30	1	○			○		○		
○			ハードウェア	基本情報用。コンピュータの仕組みについて、構成要素・動作原理・データ表現・各種装置やその構成技術などを理解する。	1前	60	4	○			○		○		
○			基本ソフトウェア	基本情報用。OSの動きや管理機能を学習する(タスク管理・データ管理・仮想記憶管理など)。	1前	30	2	○			○		○		
○			アルゴリズムとデータ構造	基本情報用。プログラム作成に必要なアルゴリズムを流れ図・疑似言語を使い理解する。	1前	30	2	○			○		○		
○			システム開発基礎	基本情報用。システム開発の基本的な手法を学び、全体の流れを把握する。	1前	30	2	○			○		○		

○		システム設計演習	ファイル設計、帳票設計、画面設計等のシステム開発に関する演習を行う。	1後	30	1		○	○					○
○		データベース	基本情報用。基本的なデータベースの理論や正規化、SQLなどについて学習する。	1前	30	2	○		○				○	
○		ネットワーク	基本情報用。ネットワークの基本的な知識を学習する。	1前	30	2	○		○					○
○		IT戦略	基本情報用。企業知識・会計、PERT等OR技術などを学習する。	1前	30	2	○		○				○	
○		ホームページ作成基礎	HTMLの基本的な知識を習得する。	2前	30	1		○	○					○
○		Web+DBプログラミング	PHP+MySQLによるWebサーバプログラミング技術を習得する。	2後	60	2		○	○					○
○		C言語I	プログラミングの導入・基本としてC言語を学習する(C検定3級を想定し、配列までを学習する)。	1前	90	3		○	○					○
○		C言語II	プログラミングの導入・基本としてC言語を学習する(C検定2級を想定し、ポインタ、構造体、ファイル操作を学習する)。	1後	60	2		○	○					○
○		Windowsプログラミング	C++またはC#などでオブジェクト指向とWindowsプログラムの学習をする。	2前	90	3		○	○					○ ○
○		制御プログラミングI	C言語によるLEGOプログラミング。	1後	30	1		○	○				○	
○		制御プログラミングII	C言語によるPICプログラミング。ICとは何かから始まり、PICを用いた制御プログラムを作成する。	2前	60	2		○	○				○	
○		オブジェクト指向	UMLとC++によるオブジェクト指向の学習を行う。	1後	30	2	○		○					○
○		情報セキュリティI	基本情報用。情報セキュリティ一般論を学習する。	1前	30	2	○		○				○	



○		サーバ構築技術 I	Linuxに関する知識・操作を習得する。Webサーバ、メールサーバ、ファイルサーバなどを構築する。	2前	60	2		○	○	○								
○		ネットワークプログラミング	C言語によるネットワークプログラミングを習得する。	2後	60	2		○	○									○
○		LAN技術	イーサネット、無線ネットワークの技術と構築方法を学ぶ。	2前	60	4	○		○									○
○		制作演習	1年次のまとめとして個人またはグループにて総合的な内部設計とプログラム開発の演習を実施する。	1後	60	2		○	○	○								
○		資格講座 I	各種資格取得のための対策授業を実施する。	1後	150	5		○	○	○								
○		資格講座 II	各種資格取得のための対策授業を実施する。	2通	240	8		○	○	○								
○		卒業研究	2年間の学習成果をまとめるために、グループごとに研究テーマを設定し、総合的な研究を行う。	2後	150	5			○	○	○							
○		選択科目 I	複数開講されている授業の中から各自の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する（選択できる科目種類は次ページを参照）。	1前	30	2	○		○									○
○		選択科目 II	複数開講されている授業の中から各自の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する（選択できる科目種類は次ページを参照）。	1後	30	2	○		○									○
○		選択科目 III	複数開講されている授業の中から各自の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する（選択できる科目種類は次ページを参照）。	2前	30	2	○		○									○
○		選択科目 IV	複数開講されている授業の中から各自の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する（選択できる科目種類は次ページを参照）。	2後	30	2	○		○									○
○		工事担任者試験対策	DD3種工事担任者試験対策を行う。	1通	30	2	○		○	○								
○		ネットワークプロトコル	TCP/IPおよびその周辺プロトコルの詳細を学ぶ。	1後	30	2	○		○	○								

○	ビジネス能力 検定対策	B検3級を通してビジネス常識を学ぶ。	1 後	30	2	○			○	○		
○	情報セキュリ ティⅡ	情報セキュリティ技術を学び、マイクロソフトMTA（ネットワーク・セキュリティ）取得のための対策授業を実施する。	1 後	30	2	○			○	○		
○	サーバ構築技 術Ⅱ	Linuxに関する知識・操作を習得する。環境構築方法を学び、各種サーバ、ファイアウォールを構築する。	2 後	30	2	○			○	○		
○	J a v a言語	基礎的なJ a v a言語を理解する。	2 前	60	2		○		○			○
○	企業会計	企業会計、勘定科目と仕分けや貸借対照表等について学ぶ。	2 前	30	2	○			○	○		
合計				38科目			2,160単位時間(94単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
全科目の成績評価において不可の評価(評価点60点未満)がなく、年間出席時限数が年間消化時限数の85%以上であり学納金未納でないこと。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要 選択必修科目「選択科目」

(工業専門課程 コンピュータ科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	コンピュータミュージック	コンピュータミュージックのソフトウェアに、既成の楽譜を打ち込みながら、楽譜の読み方などについても学習する。	全通	30	2	○			○		○		
		○	音楽	ピアノ演奏の基礎技能について学習する。	全通	30	2	○			○		○		
		○	イラスト表現	目的、テーマ、表現方法を考慮した上で、イラストレーション制作を行う。	全通	30	2	○			○		○		
		○	画像処理表現	画像処理ソフトウェアを使用し、それぞれの学生が自分で選んだテーマの作品を制作する。	全通	30	2	○			○		○		
		○	カラーコーディネイト	イメージを色で表現するトレーニングを積み重ねて実用的な色彩表現力を身につけることを目的とする。	全通	30	2	○			○		○		
		○	データベースアプリケーション	データベースソフトの「Access」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	表計算アプリケーション	表計算ソフトの「Excel」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	ビジュアルプログラミング	ビジュアルプログラミングの「Visual Basic」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	ワープロ技法	ワープロソフトの「Word」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	プレゼンテーション技法	プレゼンテーションソフトの「Power Point」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	ホームページ作成	HTML言語を使用し、ホームページの基本的なホームページを作成する。	全通	30	2	○			○		○		

		○	コンピュータ会計	コンピュータ会計ソフトを使用し、基本的な精算表を作成する。	全通	30	2	○			○			○
		○	お金の知識	株式や企業会計、個人資産などの経済知識を学ぶ。	全通	30	2	○			○			○
		○	公務員講座	公務員採用試験において実施される筆記試験の学習を行う。	全通	30	2	○			○			○
		○	秘書講座	社会人としての知識・マナーを身に付ける。	全通	30	2	○			○			○
		○	英会話	英語による会話に馴染み、結果として全体的に会話力を高めることを目標とする。	全通	30	2	○			○			○
		○	中国語会話	中国語による会話に馴染み、結果として全体的に会話力を高めることを目標とする。	全通	30	2	○			○			○
		○	資格取得講座	漢字検定3級以上合格を目指す。	全通	30	2	○			○			○
		○	ゼミナール	社会が求める専門性の高い分野や新技術などについて学ぶ。	全通	30	2	○			○			○
		○	茶道	日本の文化である茶道を学び、一般教養を深める。	全通	30	2	○			○			○
		○	書道	日本の文化である書道を学び、一般教養を深める。	全通	30	2	○			○			○
		○	体育	自己の体による運動を正しく行えるようにする。怪我のない健康な体を運動により育む。	全通	30	2	○			○			○
合計					22科目	660単位時間(44単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全科目の成績評価において不可の評価(評価点60点未満)がなく、年間出席時限数が年間消化時限数の85%以上であり学納金未納でないこと。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
浜松情報専門学校		昭和59年12月24日		松本 文晴		〒430-0929 浜松市中区中央3丁目10-31 (電話) 053-450-6550		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		橋本 新平		〒420-8538 静岡市葵区相生町12-18 (電話) 054-200-3333		
目的	コンピュータゲーム産業において、ゲーム開発業務を担当可能な人材の育成を目的としている。特に、インターネットやモバイル系端末、(単体の)パソコンなどで実行されるゲームの、プログラミング技術習得を中心としている。							
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業	工業専門課程		ゲームクリエイト科		平成23年文部科学省 告示第166号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間		360	360	2550	150	0	0
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数
60人		42人		5人		37人		42人
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末に試験を行い平素の成績と合わせて、60点以上を合格とする。		
長期休み	■学年始: 4月1日～4月8日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月17日～1月7日 ■学年末: 3月11日～3月31日			卒業・進級条件		1.必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。 2.総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内でかつ、年間出席時限数が425時限以上であること。 3.査定日現在で学納金に未納がないこと。		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施している。			課外活動		■課外活動の種類 ハイキング ■サークル活動: 無		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 (株)電興社・(株)アスタウン等 ソフトウェア開発企業等 ■就職率 <sup>※1</sup> : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 100% ■その他 (平成29年度卒業者に関する 平成30年3月31日時点の情報)			主な資格・検定等		情報処理技術者試験 (基本情報技術者試験、応用情報技術者試験) C言語プログラミング検定 2級、3級 CGエンジニア検定 ベーシック 色彩検定 3級		
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成29年4月1日時点において 在学者 44名 平成30年3月31日時点において 在学者 42名 ■中途退学の主な理由 授業料未納による進路変更のため 2名		■中退率 5% (平成29年4月1日入学者を含む) (平成30年3月31日入学者を含む)		■中退防止のための取組 開学当初より担任制をとり、授業のある日は朝のホームルームを行い、学生の状況把握に努めると共に、欠席者については保護者との連携も進めている。			
ホームページ	https://www.hamasen.ac.jp							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ゲーム業界のニーズを取り入れるための教育課程編成委員会を開催し、関係者の意見等を加え、授業科目及び授業時間を編成している。また、教育内容は業界のニーズにマッチするよう常に見直し、カリキュラム及びシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

企業等の意見を教育に反映させるため、学校組織内に教育課程編成委員会として位置付ける「教育課程編成委員会」を「浜松情報専門学校 教育課程編成委員会規程」に則り設置しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年6月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
伊藤 寛通	公益財団法人画像情報教育振興協会(CG-ARTS) 教育事業部 教育企画推進部 事業推進グループ課長	平成30年2月1日～ 平成31年1月31日	①
金岩 洋介	Recesin株式会社(レセジン)代表取締役	平成30年2月1日～ 平成31年1月31日	③
三上 慎太郎	浜松情報専門学校 教務課長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	
竹村 宏樹	浜松情報専門学校 ゲームクリエイト科教諭	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回

(開催日時)

第1回 平成29年8月 1日 10:00～11:45

第2回 平成30年3月20日 9:50～11:45

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会から意見のあった、ゲーム制作を学習する方法として、プログラム・アルゴリズム・素材・イベントを総合的に組み立て・イベント等を管理する事ができる総合ツールUnityを授業として取り入れた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本科の主要目的であるゲーム制作は、システム作成能力とコンテンツ作成能力の両方が必要となる。しかしシステムの中身よりも、インターフェースであるコンテンツ(特に画面に投影されるもの)は、利用者の品質評価に直接的でより大きな影響を与えてしまう。このため、コンテンツを実践的かつ専門的に指導できる企業を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

本校の教務責任者が企業担当者と連絡を取り、講義・実習および評価方法を説明した上で、講師派遣の依頼を行う。その後、企業から派遣された講師の指導の下、講義・実習の授業を本校の担当教員との協力体制の下実施実施し、授業終了時に学生の学習成果を踏まえ、企業派遣講師と本校担当教員が成績評価・認定を行う。授業実施期間中は情報交換を行い、円滑に目標の達成を図る。

(3)具体的な連携の例

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
キャラクタデザイン I	デザインのためのツールとしてイラストレータの使い方を学びながら、ゲーム素材であるキャラクタの作成技術を修得する。	イマクロデザイン

<p>3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p> <p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針</p> <p>「浜松情報専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るための「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。</p>																									
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【初心者でも簡単】はじめてのUnity 3D ゲームデザイン <span style="float: right;">18テーマ(配信総計約2時間)</span></li> <li>IT Udemy(ベネッセ) <span style="margin-left: 100px;">2017年 12月1日(金)～12月22日(金)</span> <span style="float: right;">受講者数 1名</span></li> <li>【概要】強力なUnity ゲームエンジンを使ってオリジナル3Dゲームを作って公開する。</li> </ul> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害の理解と対応</li> <li>講師: 浜松市発達相談支援センター 笹澤聡介 <span style="margin-left: 100px;">2017年 8月21日(月)</span> <span style="float: right;">受講者数 1名</span></li> <li>【概要】発達障害児の理解と対応について</li> <li>・在校生、卒業生の大規模調査から考える今後の専門学校教育指導のありかた</li> <li>講師: ベネッセ教育研究所 高等教育研究室 佐藤昭宏 <span style="margin-left: 100px;">2017年 8月21日(月)</span> <span style="float: right;">受講者数 1名</span></li> <li>【概要】発達障害児の理解と対応について</li> </ul>																									
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Unity講座 <span style="float: right;">16テーマ(配信総計約17時間)</span></li> <li>デジタルハリウッド オンライン講座 <span style="margin-left: 100px;">2018年8月以降</span> <span style="float: right;">受講者数 1名</span></li> <li>【概要】この講座では、「Unity」を用いてゲームを制作する基礎習得を目指す。</li> <li>関連授業(主に3DCG制作)の指導力の向上を図るを目的とする。</li> </ul> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学生理解に効果的な教授法」に対する研修を計画中 <span style="margin-left: 100px;">予定日: 2018年8月</span> <span style="float: right;">受講者数 1名</span></li> </ul>																									
<p>4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係</p>																									
<p>(1) 学校関係者評価の基本方針</p> <p>本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として実施している。</p>																									
<p>(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">ガイドラインの評価項目</th> <th style="text-align: center;">学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 教育理念・目標</td> <td>基準(1) 教育理念、目標</td> </tr> <tr> <td>(2) 学校運営</td> <td>基準(7) 学校運営</td> </tr> <tr> <td>(3) 教育活動</td> <td>基準(2) 教育活動</td> </tr> <tr> <td>(4) 学修成果</td> <td>基準(3) 教育成果</td> </tr> <tr> <td>(5) 学生支援</td> <td>基準(4) 学生支援</td> </tr> <tr> <td>(6) 教育環境</td> <td>基準(5) 教育環境</td> </tr> <tr> <td>(7) 学生の受入れ募集</td> <td>基準(6) 学生の募集と受け入れ</td> </tr> <tr> <td>(8) 財務</td> <td>基準(7) 財務</td> </tr> <tr> <td>(9) 法令等の遵守</td> <td>基準(7) 法令等の遵守</td> </tr> <tr> <td>(10) 社会貢献・地域貢献</td> <td>基準(8) 社会貢献</td> </tr> <tr> <td>(11) 国際交流</td> <td>基準(8) 国際交流</td> </tr> </tbody> </table> <p>※(10)及び(11)については任意記載。</p>		ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1) 教育理念・目標	基準(1) 教育理念、目標	(2) 学校運営	基準(7) 学校運営	(3) 教育活動	基準(2) 教育活動	(4) 学修成果	基準(3) 教育成果	(5) 学生支援	基準(4) 学生支援	(6) 教育環境	基準(5) 教育環境	(7) 学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ	(8) 財務	基準(7) 財務	(9) 法令等の遵守	基準(7) 法令等の遵守	(10) 社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献	(11) 国際交流	基準(8) 国際交流
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																								
(1) 教育理念・目標	基準(1) 教育理念、目標																								
(2) 学校運営	基準(7) 学校運営																								
(3) 教育活動	基準(2) 教育活動																								
(4) 学修成果	基準(3) 教育成果																								
(5) 学生支援	基準(4) 学生支援																								
(6) 教育環境	基準(5) 教育環境																								
(7) 学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ																								
(8) 財務	基準(7) 財務																								
(9) 法令等の遵守	基準(7) 法令等の遵守																								
(10) 社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献																								
(11) 国際交流	基準(8) 国際交流																								

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

資格取得や就職が順調であり、着実に教育成果がでていと感じるが、入学者の増加につながらないとの意見があった。募集対象学生や在校生に対して、めざす職種本来の仕事の魅力、やりがい、憧れを抱いてもらうよう、教員自らの実体験をもとに学校説明や授業展開している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
山崎 正太郎	社会福祉法人 花の園会 たんぽぽ保育園 園長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	企業委員
小野 哲	小野経営科学研究所 代表	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	企業委員
田中 宏和	一般社団法人システムコラボ・マネジメント 理事長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	企業委員
竹本 洋平	公益財団法人 静岡県予防医学協会 健康増進課	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	企業委員
金岩 洋介	Recesin株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	企業委員
小杉 雅志	浜松情報専門学校 同窓会 会長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	卒業生
山崎 文彦	松江町自治会	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	地域住民
大橋 忍	浜松情報専門学校 後援会 会長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.hamasen.ac.jp>

公開年月日: 平成30年6月30日



5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動及び学校運営について理解を求めため、県内就職先企業関係者を本校に招き、学校の説明会を実施している。詳細については、学校評価書及び学校情報をホームページ上で公開していることを伝えている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	設置コース、専門課程、修業年数、募集定員、学習時間数、入学者数、卒業者数、取得可能資格、主な就職先
(3)教職員	教職員数、組織図、研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備、学校行事、各種コンテスト、大学との連携プロジェクト、選択授業
(6)学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8)学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ(受入学科、入学選考方法、出願資格)
(11)その他	その他の教育活動(附帯事業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<https://www.hamasen.ac.jp>

## 授業科目等の概要

(工業専門課程ゲームクリエイト科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、ハイキング、ゲームショー見学等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1通	30	1	○			○				
○			コミュニケーション活動Ⅱ	始業式、終業式、防災訓練、ハイキング、ゲームショー見学等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2通	30	1	○			○				
○			コミュニケーション活動Ⅲ	始業式、終業式、防災訓練、ハイキング、ゲームショー見学等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。また修学旅行を実施。	3通	60	2	○			○				
○			就職活動準備講座Ⅰ	社会人としての知識とマナーを身につけ、就職活動への意識を高める。	1通	30	1	○			○				
○			就職活動準備講座Ⅱ	社会人としての知識・マナーを身に付け、厳しい就職戦線を勝ち抜くための準備を目標とする。演習を通して実際の就職活動への意識を高める。	2通	60	2	○			○				
○			就職実践	社会人としての知識・マナーを身に付け、厳しい就職戦線を勝ち抜くための準備を目標とする。演習を通して実際の就職活動への意識を高める。	3通	30	1	○			○				
○			ワープロ・表計算基礎	一般常識ともいえるワープロ、表計算を「使える」ではなく「使いこなせる」ことを目標に、さまざまな機能を学習し、日本語ワープロ検定や表計算検定試験に挑戦する。	1通	60	2	○			○			○	
○			プレゼンテーション基礎	コミュニケーション手段の基本的な点を理解し、それらの技法を身につける。さらに効果的なプレゼンテーションの方法である、パワーポイントの使い方を学習する。	1後	30	1	○			○			○	
	○		選択科目Ⅰ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	1前	30	2				○	○		○	
	○		選択科目Ⅱ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	1後	30	2				○	○		○	
	○		選択科目Ⅲ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	2前	30	2				○	○		○	

○	○	○	選択科目Ⅳ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	2後	30	2				○	○				○
○	○	○	選択科目Ⅴ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	3前	30	2				○	○				○
○	○	○	コミュニケーション技法Ⅰ	就職活動に必要なコミュニケーション技法を身につける。採用側が求めるコミュニケーション能力を育成する。	3前	30	1			○	○					○
○	○	○	ハードウェア	基本情報用。コンピュータの仕組みについて、構成要素・動作原理・データ表現・各種装置やその構成技術などを理解する。	1前	60	4	○			○				○	
○	○	○	ソフトウェア	OSの動きや管理機能を学習する（タスク管理・データ管理・仮想記憶管理など）。	1前	30	2	○			○					○
○	○	○	アルゴリズムとデータ構造	さまざまな処理の内容を理解した上で、取良の手順を見だし、流れ図として視覚化する方法を学習する。プログラムを作成していく上で、アルゴリズムの理解は必須である。	1前	30	2	○			○					○
○	○	○	ネットワーク	コンピューター同士を接続することで、情報の共有や処理の分散、メッセージの交換などが可能になるネットワーク技術の基本的な用語・規則などの学習する。	1前	30	2	○			○					○
○	○	○	データベース	基本的なデータベースの理論や正規化、SQLなどについて学習する。	1後	30	2	○			○					○
○	○	○	システム開発の基礎	開発の基本的な知識と手法を学習し、システム全体の流を実習で経験する。また、アドバイスを受けながら、簡易なシステム設計ができる事を目指す。	1後	30	2	○			○					○
○	○	○	IT戦略	経営戦略や会計、法務、マーケティング戦略など、広くビジネスの視点から、企業活動とITの関わりを学習する。	1後	30	2	○			○					○
○	○	○	情報マネジメント	ORの知識を身につけることを目標として学習する。	1前	30	2	○			○					○
○	○	○	C言語	プログラミングの導入・基本としてC言語を学習する（C検定3級を想定し、配列までを学習する）。	1前	120	4	△	○		○					○
○	○	○	ゲームプログラミングⅠ	Windowsプログラミングの基礎と、2Dゲーム制作に特有なプログラミング技法を学ぶ。	1後	90	3	△	○		○					○
○	○	○	ゲームプログラミングⅡ	ゲーム専用プログラム（ラッピングツール）を使用して、2D・3Dプログラミングの高度なゲームプログラミング技術を学習する。	2通	120	5	△	○		○					○
○	○	○	ゲームプログラミングⅢ	学習したゲームプログラムとネットワークの機能を実装することで、オンラインプログラムの基本的な機能を確認する学習する。	3前	120	4	△	○		○					○

○		オブジェクト指向プログラミングⅠ	オブジェクト指向プログラミングであるC++言語の記述方法を中心に学習する。学習を通してWindowsプログラムを作成する。	2後	90	3	△	○	○	○	○	○	○	○
○		オブジェクト指向プログラミングⅡ	Java言語によるオブジェクト指向プログラミングの考え方・作成方法を習得する。	3後	90	3	△	○	○	○	○	○	○	○
○		ネットワークプログラミング	「ソケットプログラミング」を通して、TCP/IPネットワーク上で行われている通信の基本原則を理解する。プログラムソースを作成・実行する実習と、基礎理論の再確認をする講義のなる。	2後	60	2	△	○	○	○	○	○	○	○
○		コンピュータグラフィックスⅠ	フォトレタッチソフトを使い、描画・加工・編集等の基本操作、機能を学び、2次元の作品を作ることで基本的な技法を学ぶ。	1通	60	2	△	○	○	○	○	○	○	○
○		コンピュータグラフィックスⅡ	3次元グラフィックスソフトの操作方法を習得し、3Dゲームプログラムの素材を作成する。	2通	60	2	△	○	○	○	○	○	○	○
○		コンピュータグラフィックスⅢ	3次元グラフィックスの作品を制作する。作品は、3次元モデル作成だけでなく、簡単なアニメーションも制作する。	3前	60	2	△	○	○	○	○	○	○	○
○		色彩理論	色彩の基本理論の習得と実践で活用するための知識を、色彩検定をベースにして学ぶ。	1前	30	1	△	○	○	○	○	○	○	○
○		キャラクターデザイン	デザインを描くためのツールとしてイラストレータの使い方を学びながら、ゲーム素材であるキャラクターの作成技術を修得する。	2前	90	3	△	○	○	○	○	○	○	○
○		デッサン	デッサンの基礎を身につける。スケッチ技法、イラスト的な人物など、遠近法や物の形、質感など正しく描写するための技法を学ぶ。	1通	30	1	△	○	○	○	○	○	○	○
○		ゲーム数学	数学がゲーム世界でどのように利用されるのかを、実際のプログラムで実行し確認しながら学ぶ。	1後	30	4		○	○	○	○	○	○	○
○		ゲームプランニングⅠ	ストーリーの書き方、シナリオの展開を中心に学習する。その背景になる、過去のゲーム研究・心理学的側面、文章表現など多くの事を学習する。	1後	30	2		○	○	○	○	○	○	○
○		ゲームプランニングⅡ	実際に想定して、場面設定・必要な素材・イベント管理・キャラクター・それぞれのパラメータ・イベント管理・計算式などの設定を行い、どのようにプログラムで管理していくのかを考えて設計書を書く。プロトタイプの作成も行う。	2前	30	2		○	○	○	○	○	○	○
○		ゲームプランニングⅢ	今まで学習した演習内容・制作したシナリオを自身のアイデアで再構成や加工をして作品として作り上げる。これらは、卒業研究の作品などのベースとする。	3前	30	2		○	○	○	○	○	○	○

○		Webプログラミング	Webの制作に必要なHTMLなどの基本的な知識から応用編までを習得する。素材などを用意して色々なデザインや機能を持ったホームページが創作できる事を目標とする。	2前	90	2	△	○	○	○				
○		WebゲームⅠ	パソコンからスマートフォンまで、共通のプラットフォームが利用され、インターネットを利用したブラウザゲームが今多くの人々がプレイしています。環境・開発手順などサンプルを利用した基本事項を学習します。	2後	30	1	△	○	○	○				
○		WebゲームⅡ	引き続き、演習を通して応用技術を習得し、自分のアイデア・デザインを実装して作品を創る事を目標とします。	3前	60	2	△	○	○	○				
○		モバイルコンテンツⅠ	Javaを用いたAndroidプログラム作成の開発環境のしくみ・プログラム記述の基本事項を学びます。演習を通して単機能の動作を確認していきます。	1後	30	1	△	○	○	○				
○		モバイルコンテンツⅡ	Javaを用いたAndroidプログラム作成の応用プログラム記述の応用・実践事項を学びます。演習を通して複合機能の動作を確認し、使えるアプリを構築する事を目標に学習していきます。	3前	60	2	△	○	○	○				
○		Linux	ゲームなどにもLinuxは使われていますし、シェアが高いのもサーバー（サービスを提供するコンピュータ）の分野です。これらに微調整を加える作業は開発現場では当たり前の事です。こんな事ができる技術者になるための学習する。	3前	60	2	△	○	○	○				
○		作品制作Ⅰ	各自ゲーム素材を作成し、Windowsプログラムを使用してそれらをゲームとして組み立て、一人で1作品を作成する。自分自身で実装作業をする事で、より理解を深める事を目標とします。	1後	60	2		○	○	○				
○		作品制作Ⅱ	ゲーム用プログラムを利用して作品を制作していく。自分で考えたルール・デザインの処理のプログラムを考え順番に実装していきその処理を考察していく時間とする。考えたものが実際に「動いた」を体験して貰いたい。	2前	60	2		○	○	○				
○		作品制作Ⅲ	ゲーム用プログラムの3D部分のを学習する。2D処理との共通部分は多いが、3D機能の、カメラ・レンダリング・座標管理など、2Dとの差異を学習する。	2後	90	3		○	○	○				
○		作品制作Ⅳ	学習した2D・3D・ネットワーク・C++・C#など総合して作品を制作してみましょう。具体的に自分自身で実装作業をする事で、不明な事柄を調べるなど、新しい学習方法で作品制作ができるようになります。	3前	120	4		○	○	○				
○		卒業研究	3年間の学習成果をまとめるために、グループごとに研究テーマを設定し、総合的な研究を行う。	3後	210	7		○	○	○				

○		資格講座Ⅰ	検定受験のための資格試験対策を行う。	1 通	90	3		○	○	○				
○		資格講座Ⅱ	情報処理試験受験のための資格試験対策を行う。	2 前	120	4		○	○	○				
○		ゲーム制作 特別講座	ゲームを制作する為の、プログラム・ツール類・手法などの変化の流が早い。学習年度のキーとして話題（業界内で利用されている）となっている項目を学習する。	2 後	60	2	△	○	○	○				
合計			53科目	3,060単位時間(122単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
全科目の成績評価において不可の評価(評価点60点未満)がなく、年間出席時限数が年間消化時限数の85%以上であり学納金未納でないこと。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	20 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要 選択必修科目「選択科目」

(工業専門課程ゲームクリエイト科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	コンピュータミュージック	コンピュータミュージックのソフトウェアに、既成の楽譜を打ち込みながら、楽譜の読み方などについても学習する。	全通	30	2	○			○		○		
		○	音楽	ピアノ演奏の基礎技能について学習する。	全通	30	2	○			○		○		
		○	イラスト表現	目的、テーマ、表現方法を考慮した上で、イラストレーション制作を行う。	全通	30	2	○			○		○		
		○	画像処理表現	画像処理ソフトウェアを使用し、それぞれの学生が自分で選んだテーマの作品を制作する。	全通	30	2	○	2 4 0 1 1 8		○		○		
		○	カラーコーディネイト	イメージを色で表現するトレーニングを積み重ねて実用的な色彩表現力を身につけることを目的とする。	全通	30	2	○			○		○		
		○	データベースアプリケーション	データベースソフトの「Access」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	表計算アプリケーション	表計算ソフトの「Excel」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	ビジュアルプログラミング	ビジュアルプログラミングの「Visual Basic」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	ワープロ技法	ワープロソフトの「Word」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	プレゼンテーション技法	プレゼンテーションソフトの「Power Point」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	ホームページ作成	HTML言語を使用し、ホームページの基本的なホームページを作成する。	全通	30	2	○			○		○		

		○	コンピュータ会計	コンピュータ会計ソフトを使用し、基本的な精算表を作成する。	全通	30	2	○			○			○
		○	お金の知識	株式や企業会計、個人資産などの経済知識を学ぶ。	全通	30	2	○			○			○
		○	公務員講座	公務員採用試験において実施される筆記試験の学習を行う。	全通	30	2	○			○			○
		○	秘書講座	社会人としての知識・マナーを身に付ける。	全通	30	2	○			○			○
		○	英会話	英語による会話に馴染み、結果として全体的に会話力を高めることを目標とする。	全通	30	2	○			○			○
		○	中国語会話	中国語による会話に馴染み、結果として全体的に会話力を高めることを目標とする。	全通	30	2	○			○			○
		○	資格取得講座	漢字検定3級以上合格を目指す。	全通	30	2	○			○			○
		○	ゼミナール	社会が求める専門性の高い分野や新技術などについて学ぶ。	全通	30	2	○			○			○
		○	茶道	日本の文化である茶道を学び、一般教養を深める。	全通	30	2	○			○			○
		○	書道	日本の文化である書道を学び、一般教養を深める。	全通	30	2	○			○			○
		○	体育	自己の体による運動を正しく行えるようにする。怪我のない健康な体を運動により育む。	全通	30	2	○			○			○
合計						22科目		660単位時間(44単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全科目の成績評価において不可の評価(評価点60点未満)がなく、年間出席時限数が年間消化時限数の85%以上であり学納金未納でないこと。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
浜松情報専門学校		昭和59年12月24日	松本 文晴		〒430-0929 浜松市中区中央3丁目10-31 (電話) 053-450-6550		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日	橋本 新平		〒420-8538 静岡市葵区相生町12-18 (電話) 054-200-3333		
目的	一般企業の総務・経理事務や営業、保険・金融業界で求められる人材を育成する。また、業務の効率化を図るための情報処理技能やビジネス知識及び社会人としての基礎力を資格取得を通して習得することを目的とし、多様化する学生のニーズや社会が求める人材の育成を図る。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
商業実務	専門課程		ビジネスライセンス科		平成28年文部科学省 告示第19号		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数 2040	講義	演習	実習	実験	実技
2	昼間		780	1140	120	0	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40		25		4	25	29	
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末に試験を行い平素の成績と合わせて、60点以上を合格とする。		
長期休み	■学年始: 4月1日～4月8日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月17日～1月7日 ■学年末: 3月11日～3月31日			卒業・進級条件	1.必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。 2.総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内でかつ、年間出席時限数が425時限以上であること。 3.査定日現在で学納金に未納がないこと。		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施している。			課外活動	■課外活動の種類 ハイキング 企業見学 ■サークル活動: 無		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 遠州トラック(株) シブヤ精機(株) (株)日本シャルフ ■就職率 <sup>※1</sup> : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 100% ■その他 (平成29年度卒業者に関する 平成30年3月31日時点の情報)			主な資格・検定等	MOS-WORD2013expert MOS-EXCEL2013expert MOS-PowerPoint2013 MOS-ACCESS2013 日商簿記検定3級 秘書検定2級 日商販売士検定3級 ファイナンシャル・プランニング技能士3級		
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成29年4月1日時点において 在学者 25名 (平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において 在学者 25名 (平成30年3月31日入学者を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止のための取組 開学当初より担任制をとり、授業のある日は朝のホームルームを行い、学生の状況把握に努めると共に、欠席者については保護者との連携も進めている。						
ホームページ	https://www.hamasen.ac.jp						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

一般企業の総務・経理事務や営業、保険・金融業界で求められる知識・能力について、業界のニーズを取り入れるための教育課程編成委員会を開催し、関係者の意見等を加え、授業科目及び授業時間を編成している。また、教育内容は業界のニーズにマッチするよう常に見直し、カリキュラム及びシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

企業等の意見を教育に反映させるため、学校組織内に教育課程編成委員会として位置付ける「教育課程編成委員会」を「浜松情報専門学校 教育課程編成委員会規程」に則り設置しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
岩間 信弥	一般社団法人 日本販売士協会 専務理事	平成30年2月1日～ 平成31年1月31日	①
島津 一暁	浜松信用金庫 法人営業部 地域活性課長	平成30年2月1日～ 平成31年1月31日	③
三上 慎太郎	浜松情報専門学校 教務課長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	
牧野 律子	浜松情報専門学校 ビジネスライセンス科教諭	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	
朝倉 将貴	浜松情報専門学校 ビジネスライセンス科教諭	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回

(開催日時)

第1回 平成29年 7月21日 15:00～17:00

第2回 平成30年 3月23日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会の意見であった、就職試験のためではなく、社会人として必要な知識を得るために、新聞を読んで欲しいという意見を聞き、「新聞の読み方」を授業の一部として取り入れた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本科の主要資格であるファイナンシャルプランニング技能士検定対策講座で、株・債権・為替・投資信託の基礎知識を習得する。その上で、株式の模擬売買を通じて、株価変動の背景となっている現実の経済・社会の動きをより実践的かつ専門的に指導できる企業を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

本校の教務責任者が企業担当者と連絡を取り、講義・実習および評価方法を説明した上で、講師派遣の依頼を行う。その後、企業から派遣された講師の指導の下、講義・実習の授業を本校の担当教員との協力体制の下実施実施し、授業終了時に学生の学習成果を踏まえ、企業派遣講師と本校担当教員が成績評価・認定を行う。授業実施期間中は情報交換を行い、円滑に目標の達成を図る。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
マーケティングⅡ	ビジネスプランコンテストの応募を通して、マーケティング分析手法を学び企画立案を行う。	株式会社はあもにい
株取引演習	株式の模擬売買を通して、株価に影響を及ぼす要因である経済・政策・企業の動きを理解する。	藍澤証券株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針	
「浜松情報専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るための「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
・仕事でつかえる実務簿記入門 税務研究会 主催	2017年12月20日(水) 受講者数 1名 【概要】簿記3級の内容の仕事での活かし方、また検定を取得する意味を理解する。
② 指導力の修得・向上のための研修等	
・発達障害の理解と対応 講師:浜松市発達相談支援センター 笹澤聡介	2017年 8月21日(月) 受講者数 4名 【概要】発達障害児の理解と対応について
・在校生、卒業生の大規模調査から考える今後の専門学校教育指導のありかた 講師:ベネッセ教育研究所 高等教育研究室 佐藤昭宏	2017年 8月21日(月) 受講者数 4名 【概要】発達障害児の理解と対応について
(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
・基礎から学ぶ経理の実務 税務研究会 主催	2018年5月18日(金) 受講者数 1名 【概要】日常の経理業務の仕組みを理解し、簿記会計の授業での指導力の向上を図るを目的とする。
② 指導力の修得・向上のための研修等	
・「学生理解に効果的な教授法」に対する研修を計画中	予定日:2018年8月 受講者数 2名
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として実施している。	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準(1) 教育理念、目標
(2)学校運営	基準(7) 学校運営
(3)教育活動	基準(2) 教育活動
(4)学修成果	基準(3) 教育成果
(5)学生支援	基準(4) 学生支援
(6)教育環境	基準(5) 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ
(8)財務	基準(7) 財務
(9)法令等の遵守	基準(7) 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献
(11)国際交流	基準(8) 国際交流
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

資格取得や就職が順調であり、着実に教育成果がでていいると感じるが、入学者の増加につながらないとの意見があった。

募集対象学生や在校生に対して、めざす職種本来の仕事の魅力、やりがい、憧れを抱いてもらうよう、教員自らの実体験

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
山崎 正太郎	社会福祉法人 花の園会 たんぼぼ保育園 園長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
小野 哲	小野経営科学研究所 代表	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
田中 宏和	一般社団法人システムコラボ・マネジメント 理事長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
竹本 洋平	公益財団法人 静岡県予防医学協会 健康増進課	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
金岩 洋介	Recesin株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
小杉 雅志	浜松情報専門学校 同窓会 会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	卒業生
山崎 文彦	松江町自治会	平成30年4月1日～平成31年3月31日	地域住民
大橋 忍	浜松情報専門学校 後援会 会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.hamasen.ac.jp>

公開年月日: 平成30年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動及び学校運営について理解を求めするため、県内就職先企業関係者を本校に招き、学校の説明会を実施している。詳細については、学校評価書及び学校情報をホームページ上で公開していることを伝えている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	設置コース、専門課程、修業年数、募集定員、学習時間数、入学者数、卒業者数、取得可能資格、主な就職先
(3)教職員	教職員数、組織図、研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備、学校行事、各種コンテスト、大学との連携プロジェクト、選択授業
(6)学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8)学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ(受入学科、入学選考方法、出願資格)
(11)その他	その他の教育活動(附帯事業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<https://www.hamasen.ac.jp>

## 授業科目等の概要

(商業実務専門課程ビジネスライセンス科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、ハイキング、ビジネスショー見学等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1通	30	1		○		○				
○			コミュニケーション活動Ⅱ	始業式、終業式、防災訓練、球技大会、ハイキング、ビジネスショー見学等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。また修学旅行を実施する。	2通	60	2		○		○				
○			就職活動準備講座Ⅰ	社会人としての知識とマナーを身につけ、就職活動への意識を高める。	1通	60	2		○		○				
○			就職活動準備講座Ⅱ	社会人としての知識・マナーを身につけ、厳しい就職戦線を勝ち抜くための準備を目標とする。演習を通して実際の就職活動への意識を高める。	2通	30	1		○		○				
○			ワープロ・表計算基礎	一般常識ともいえるワープロ、表計算を「使える」ではなく「使いこなせる」ことを目標に、さまざまな機能を学習し、日本語ワープロ検定や表計算検定試験に挑戦する。	1通	60	2		○		○				○
○			プレゼンテーション基礎	コミュニケーション手段の基本的な点を理解し、それらの技法を身につける。さらに効果的なプレゼンテーションの方法である、パワーポイントの使い方を学習する。	1後	30	1		○		○				○
	○		選択科目Ⅰ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	1前	30	2				○	○			○
	○		選択科目Ⅱ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	1後	30	2				○	○			○
	○		選択科目Ⅲ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	2前	30	2				○	○			○
	○		選択科目Ⅳ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	2後	30	2				○	○			○
○			簿記Ⅰ	簿記の基本原理、および日商簿記検定試験3級のための学習をする。	1通	90	6	○			○				○







○	卒業研究	2年間のまとめとして、卒業研究を行い、まとめ・プレゼンテーションを行う。	2 後	90	3	○	○	○				
合計		42科目	2,040単位時間(98単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
全科目の成績評価において不可の評価(評価点60点未満)がなく、年間出席時限数が年間消化時限数の85%以上であり学納金未納でないこと。 (留意事項)		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	20週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要 選択必修科目「選択科目」

( (商業実務専門課程ビジネスライセンス科) ) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	コンピュータミュージック	コンピュータミュージックのソフトウェアに、既成の楽譜を打ち込みながら、楽譜の読み方などについても学習する。	全通	30	2	○			○		○		
		○	音楽	ピアノ演奏の基礎技能について学習する。	全通	30	2	○			○		○		
		○	イラスト表現	目的、テーマ、表現方法を考慮した上で、イラストレーション制作を行う。	全通	30	2	○			○		○		
		○	画像処理表現	画像処理ソフトウェアを使用し、それぞれの学生が自分で選んだテーマの作品を制作する。	全通	30	2	○			○		○		
		○	カラーコーディネート	イメージを色で表現するトレーニングを積み重ねて実用的な色彩表現力を身につけることを目的とする。	全通	30	2	○			○		○		
		○	データベースアプリケーション	データベースソフトの「Access」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	表計算アプリケーション	表計算ソフトの「Excel」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	ビジュアルプログラミング	ビジュアルプログラミングの「Visual Basic」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	ワープロ技法	ワープロソフトの「Word」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	プレゼンテーション技法	プレゼンテーションソフトの「Power Point」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○			○		○		
		○	ホームページ作成	HTML言語を使用し、ホームページの基本的なホームページを作成する。	全通	30	2	○			○		○		

		○	コンピュータ会計	コンピュータ会計ソフトを使用し、基本的な精算表を作成する。	全通	30	2	○			○			○
		○	お金の知識	株式や企業会計、個人資産などの経済知識を学ぶ。	全通	30	2	○			○			○
		○	公務員講座	公務員採用試験において実施される筆記試験の学習を行う。	全通	30	2	○			○			○
		○	秘書講座	社会人としての知識・マナーを身に付ける。	全通	30	2	○			○			○
		○	英会話	英語による会話に馴染み、結果として全体的に会話力を高めることを目標とする。	全通	30	2	○			○			○
		○	中国語会話	中国語による会話に馴染み、結果として全体的に会話力を高めることを目標とする。	全通	30	2	○			○			○
		○	資格取得講座	漢字検定3級以上合格を目指す。	全通	30	2	○			○			○
		○	ゼミナール	社会が求める専門性の高い分野や新技術などについて学ぶ。	全通	30	2	○			○			○
		○	茶道	日本の文化である茶道を学び、一般教養を深める。	全通	30	2	○			○			○
		○	書道	日本の文化である書道を学び、一般教養を深める。	全通	30	2	○			○			○
		○	体育	自己の体による運動を正しく行えるようにする。怪我のない健康な体を運動により育む。	全通	30	2	○			○			○
合計						22科目		660単位時間(44単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全科目の成績評価において不可の評価(評価点60点未満)がなく、年間出席時限数が年間消化時限数の85%以上であり学納金未納でないこと。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
浜松情報専門学校		昭和59年12月24日		松本 文晴		〒430-0929 浜松市中区中央3丁目10-31 (電話) 053-450-6550		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		橋本 新平		〒420-8538 静岡市葵区相生町12-18 (電話) 054-200-3333		
目的	保育現場として幼稚園と保育園を設定し、必要な専門知識と能力を育成し、資格取得の過程で現場実習を経験することにより実践的な人材を育成することを目的とする。							
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士	
教育・ 社会福祉	教育・ 社会福祉専門課程		こども保育科		平成22年文部科学省 告示第152号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間		3105	1215	1440	450	0	0
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数
60 人		56 人		2 人		43 人		45 人
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目認定試験、レポート、態度等 100点満点中60点以上合格			
長期休み	■学年始: 4月1日～4月8日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月17日～1月7日 ■学年末: 3月11日～3月31日			卒業・進級 条件	1.必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。 2.総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内かつ、年間出席時限数が425時限以上であること。 3.査定日現在で学納金に未納がないこと。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施している。			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 無			
就職等の 状況	■主な就職先、業界等 ずだじこども園、たんぼぼ保育園等の幼稚園・ 保育園・認定こども園 ■就職率 <sup>※1</sup> : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 100% ■その他 (平成30年度卒業者に関する 平成30年3月31日時点の情報)			主な資格・ 検定等	幼稚園教諭2種免許 保育士資格 社会福祉主事任用資格 幼児体育指導者検定2級			
中途退学 の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 1.8% 平成29年4月1日時点において 在学者 57名 (平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において 在学者 56名 (平成30年3月31日入学者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更のため ■中退防止のための取組 進路に悩む学生に対し、科内の複数の教員で面談をし、退学者防止に努めている。							
ホームページ	https://www.hamasen.ac.jp							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係			
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針			
幼稚園指導要領及び保育所保育指針に精通し、幼児体育に関する実践的な活動を行っている企業を選定している。この連携により「健康」に関する保育内容と方法を理解する。			
(2)教育課程編成委員会等の位置付け			
保育現場の意見を教育に反映させるため、学校組織内に教育課程編成委員会として位置付ける「教育課程編成委員会」を「浜松情報専門学校 教育課程編成委員会規程」に則り設置しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制としている。			
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿			
平成30年6月1日現在			
名 前	所 属	任 期	種 別
山崎 正太郎	いわた保育士会	平成30年2月1日～ 平成31年1月31日	①
安田 友昭	(有)浜松こどものとも社 代表取締役	平成30年2月1日～ 平成31年1月31日	③
松本 文晴	浜松情報専門学校 校長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	
小澤 稔	浜松情報専門学校 教務課長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	
江塚 会里	浜松情報専門学校 こども保育科教諭	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	
森田 千晶	浜松情報専門学校 こども保育科教諭	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	
※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員			
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期			
年2回 (開催日時) 第1回 平成29年 7月27日 15:00～16:30 第2回 平成30年 3月13日 15:00～16:45			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況			
教育課程編成委員会で、「学生に保育施設でのボランティア等に積極的に参加して欲しい」という意見を聞き、夏祭り、運動会、発表会等の行事でのボランティア参加を、積極的に実施した。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針			
企業からの派遣講師の指導を受けることにより、「健康」に関する保育内容(①就学前段階の運動遊びの指導・援助、②基本的な生活習慣の形成およびその援助、③健康、安全に関する保育活動)および方法を理解する。幼児体育を専門としている企業と連携し、実践的な知識、技能の習得を図る。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容			
本校の教務責任者が企業の担当者と連絡をとり講義・演習・および評価方法を説明した後、講師派遣を行う。その後、企業から派遣された講師の指導の下、講義・演習の授業を、本校の担当教員との協力体制のもと実施し、授業終了時に学生の学習成果の評価を踏まえ、企業派遣講師と本校担当教員が成績評価・認定を行う。授業実施期間中は毎時開始・終了時に情報交換を行い、円滑に目標とする成果の達成を図る。			
(3)具体的な連携の例			
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等	
健康科学	幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される「健康」領域の理解を深め、幼児期に必要な運動遊びの指導方法を計画し発表する。	株式会社 ファミリ	
児童家庭福祉	子どもを保育したり、保護・養護する施設やその方法、内容、目的などを学ぶ	合同会社 Spes	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にしていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針	
「浜松情報専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るための「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
・障害者差別解消法入門 静岡県精神保健福祉協会 主催	2017年12月 7日(木) 受講者数 1名
【概要】障害者差別解消法への理解を深め、障害の有無によって分け隔てられる事のない共生社会の実現について。	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
・発達障害の理解と対応 講師：浜松市発達相談支援センター 笹澤聡介	2017年 8月21日(月) 受講者数 2名
【概要】発達障害児の理解と対応について	
・在校生、卒業生の大規模調査から考える今後の専門学校教育指導のありかた 講師：ベネッセ教育研究所 高等教育研究室 佐藤昭宏	2017年 8月21日(月) 受講者数 2名
【概要】発達障害児の理解と対応について	
(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
・たにぞうあそびうた講習会 浜松市 音楽サークル「ちよびんくらぶ」主催	2018年4月15日(日) 受講者数 1名
【概要】創作あそび作家たにぞうの講習により、保育現場で必要とされているふれあい遊びや身体表現等の保育技術を学ぶことにより指導力の向上を図るを目的とする。	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
・「学生理解に効果的な教授法」に対する研修を計画中	予定日：2018年8月 受講者数 2名
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として実施している。	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	基準(1) 教育理念、目標
(2) 学校運営	基準(7) 学校運営
(3) 教育活動	基準(2) 教育活動
(4) 学修成果	基準(3) 教育成果
(5) 学生支援	基準(4) 学生支援
(6) 教育環境	基準(5) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ
(8) 財務	基準(7) 財務
(9) 法令等の遵守	基準(7) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献
(11) 国際交流	基準(8) 国際交流
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

資格取得や就職が順調であり、着実に教育成果がでていいると感じるが、入学者の増加につながらないとの意見があった。募集対象学生や在校生に対して、めざす職種本来の仕事の魅力、やりがい、憧れを抱いてもらうよう、教員自らの実体験をもとに学校説明や授業展開している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
山崎 正太郎	社会福祉法人 花の園会 たんぼぼ保育園 園長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
小野 哲	小野経営科学研究所 代表	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
田中 宏和	一般社団法人システムコラボ・マネジメント 理事長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
竹本 洋平	公益財団法人 静岡県予防医学協会 健康増進課	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
金岩 洋介	Recesin株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～平成31年3月31日	企業委員
小杉 雅志	浜松情報専門学校 同窓会 会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	卒業生
山崎 文彦	松江町自治会	平成30年4月1日～平成31年3月31日	地域住民
大橋 忍	浜松情報専門学校 後援会 会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) ( )

URL: <https://www.hamasen.ac.jp>

公開年月日: 平成30年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動及び学校運営について理解を求めするため、県内就職先企業関係者を本校に招き、学校の説明会を実施している。詳細については、学校評価書及び学校情報をホームページ上で公開していることを伝えている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	設置コース、専門課程、修業年数、募集定員、学習時間数、入学者数、卒業者数、取得可能資格、主な就職先
(3)教職員	教職員数、組織図、研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備、学校行事、各種コンテスト、大学との連携プロジェクト、選択授業
(6)学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8)学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ(受入学科、入学選考方法、出願資格)
(11)その他	その他の教育活動(附帯事業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<https://www.hamasen.ac.jp>



## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こども保育科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職準備講座Ⅰ	社会人としての知識とマナーを身につけ、就職活動への意識を高める。	2後	30	1	○			○		○		
○			就職準備講座Ⅱ	社会人としての知識・マナーを身につけ、厳しい就職戦線を勝ち抜くための準備を目標とする。この科目を通して実際の就職活動への意識を高める。	3前	60	2	○			○		○		
○			コミュニケーション活動Ⅰ	始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、ハイキング、ビジネスショー見学等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1通	30	1		○		○		○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	始業式、終業式、防災訓練、球技大会、ハイキング、ビジネスショー見学等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。また修学旅行を実施する。	2通	60	2		○		○		○		
○			コミュニケーション活動Ⅲ	始業式、終業式、防災訓練、球技大会、ハイキング、ビジネスショー見学等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3通	30	1		○		○		○		
○			ワープロ・表計算Ⅰ	一般常識ともいえるワープロ、表計算を「使える」ではなく「使いこなせる」ことを目標に、さまざまな機能を学習し、日本語ワープロ検定や表計算検定試験に挑戦する。	1通	60	2		○		○		○		
○			ワープロ・表計算Ⅱ	ワープロ・表計算Ⅰに引き続き、ワープロの「Word」と表計算の「Excel」を使いこなせるよう、学習していく。	2後	30	1		○		○		○		
○			ワープロ・表計算Ⅲ	WordやExcelを使用し、幼稚園・保育園で役立つ文書や名簿等を作成できる学習をする。	3後	30	1		○		○		○		
○			マナー教養Ⅰ	保育実習・教育実習前の電話の掛け方、実習中の挨拶など、実習生としてのマナーを学習する。	1後	30	1		○		○			○	
○			マナー教養Ⅱ	保育者が子どもや保護者と接する基本的な姿勢、また園長や先輩保育者の子どもへの接し方や同僚とのかかわり方、社会人としてのマナーなどを学習する。	2前	30	1		○		○			○	
	○		選択科目Ⅰ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	1前	30	2			○	○			○	

○	○	選択科目Ⅱ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	1後	30	2				○	○						○		
○	○	選択科目Ⅲ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	2前	30	2				○	○							○	
○	○	選択科目Ⅳ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	2後	30	2				○	○							○	
○	○	選択科目Ⅴ	1年間に2教科の選択科目が予定されている。その中から各自学習の進度に応じて、興味のある分野を選択し学習する。	2前	30	2				○	○							○	
○		英会話Ⅰ	英語による会話に馴染み、結果として全体的に会話力を高めることを目標とする。	1前	15	1	○				○							○	
○		健康科学	幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される「健康」領域の理解を深め、幼児期に必要な運動遊びの指導方法を計画し発表する。	1前	15	1	△	○			○							○	○
○		日本国憲法	憲法が求めている理念とは何か、現実社会との間にどのようなギャップがあるかを見つめながら、憲法問題に対するリーガルマインドを養っていくことを目標とする。	1後	30	2	○				○								○
○		情報処理入門Ⅰ	コンピュータの基本用語を理解した上で、コンピュータを使用して、現代社会の問題点などについて考える。	1前	15	1	○				○								○
○		児童家庭福祉	将来を担う子供たちに向かう児童福祉実践者として、基本的・体系的に学習し、現在の児童福祉に関する理解を深めることを目標とする。	2後	30	2	○				○								○
○		社会福祉	将来において「児童の福祉」を推進する保育士に必要な社会福祉の基本的な事項を学習する。	1後	30	2	○				○								○
○		教育原理	教育の本質と意義を理解し、教育に関する基本的な概念と知識の習得を図ることを目標とする。	1前	30	2	○				○								○
○		保育原理	乳幼児の特性や保育の思想・制度の発達などを理解し、保育に関する基本的な知識を学習する。	2前	30	2	○				○								○
○		教育心理学	考える思考の形成、勉強の仕方、学習に対する意欲・自発性、態度・学習を肯定する価値観を軸にして教育心理学を考えることを目標にする。	1後	15	1	○				○								○
○		造形表現	幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容の研究を行い、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力の養成を目標とする。	1前	15	1		○			○								○
○		発達心理学	人間の発達生涯発達であることを基本において、乳幼児、児童、そして青年、高齢者までの心理について考える。	2前	30	2	○				○								○

○		家族支援論	これまで地域社会や親族、家族が果たしてきた役割、機能は何か、子どもを取り巻く社会環境を点検し、これからの家族のあり方、役割を考える。	2前	30	2	○			○			○
○		障がい児保育	子どもの脳及び心身の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害について理解を深めていく。	2後	15	1	○			○			○
○		児童文化	児童文化の重要性を十分に認識した上で、実習を行い、児童文化の分野の実践的な指導ができるようになることを目標とする。	3前	15	1	○			○		○	
○		子どもの保健 I ①	小児の心身の、自然で正常な発達の姿を理解し、それに基づいて、健全な育成の仕方を理解する。	1後	30	2	○			○			○
○		子どもの保健 I ②	子どもの保健 I ①に引き続き、小児の心身の、自然で正常な発達の姿を理解し、それに基づいて、健全な育成の仕方を理解する。	2通	30	2	○			○			○
○		子どもの食と栄養	小児の発育・発達の特徴、栄養に関する知識をふまえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、集団給食、食教育の重要性を理解することを目標とする。	2前	15	1	○			○			○
○		社会的養護	福祉に欠ける児童の生存権、発達権を保障し、健全育成を目指すために、児童福祉施設入所者児童に対する、養護のあり方を探る。	1後	30	2	○			○			○
○		乳児保育	保育園等における3歳未満児の保育についてその概念と意義を把握し、制度と現状を理解する。	3前	15	1	○			○			○
○		青年心理学	複雑な現代に生きる青年が、自分を見つめ、自己成長するために必要な、知識と方法の提供をめざす。	2後	15	1	○			○			○
○		教育課程総論	自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に教育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養うことを目標とする。	1通	30	2	○			○			○
○		教育方法論	「保育指導」（援助）とは何かについて考え、理論を踏まえた実践力のある保育者の育成を目指すことにする。	1前	15	1	○			○			○
○		教職概論	教師に何が求められているのかを考えることから、教育という仕事を遂行していくための能力を形成することを目標とする。	1前	30	2	○			○			○
○		教育相談	子どもの世界や保育士の役割についての理解を深めることを通じて、子どもや家族への支援スキルの基礎を学ぶことを目標とする。	2通	30	2	○			○		○	
○		保育・教職実践演習	これまでの勉強を振り返り、保育者として必要な知識・技能を修得したことを確認する。	2後	15	1	○			○		○	
○		実習事前・事後指導 I	実習の意義・目的を理解し、実習中の自らの課題を明確にする。実習の事後指導を通じて、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	1後	30	2	○			○		○	



○		自然遊びⅠ	さまざまな自然体験を通して、自然への理解や関心を深める。	2 通	30	1	○		○		○		
○		自然遊びⅡ	自然遊びⅠに引き続き、さまざまな自然体験を通して、自然への理解や関心を深める。	3 通	30	1	○		○		○		
○		卒業研究	3年間の学習成果をまとめるため、グループ毎に研究テーマを決め総合的な研究を行う。企画、設計、製作、発表、まとめの一連の作業を学習する。	3 後	90	3		○		○		○	
○		英会話ⅠS	英語による会話に馴染み、結果として全体的に会話力を高めることを目標とする。	1 後	20	1	○			○			○
○		生涯スポーツS	スポーツ活動をライフサイクルの中に位置づけ、自主的・主体的に実践していくことを目標とする。	1 後	30	1		○			○		○
○		情報処理入門ⅠS	コンピュータの基本用語を理解した上で、コンピュータを使用して、現代社会の問題点などについて考える。	1 前	20	1		○			○		
○		音楽Ⅰ①S	1年次科目音楽演奏Ⅰの学習を基に、弾き歌い・ピアノの発表会（試験）を行う。	1 後	20	1		○			○		○
○		音楽Ⅰ②S	2年次科目音楽演奏Ⅱの学習を基に、弾き歌い・ピアノの発表会（試験）を行う。	2 後	20	1		○			○		○
○		図画工作S	幼児の造形活動に対して、適切で充実した援助と造形教育を行える能力を養成することを目標とする。	2 後	20	1		○			○		○
○		幼児体育S	幼児体育を実践する上で、必要な保育技術と教材づくりに関する実践的知識を習得する。	2 前	20	1		○			○		○
○		教育心理学S	考える思考の形成、勉強の仕方、学習に対する意欲・自発性、態度・学習を肯定する価値観を軸として教育心理学を考えることを目標にする。	1 後	20	1	○				○		○
○		健康S	子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それにかかわる環境について理解を深める。	1 前	20	1	○				○		○
○		人間関係S	人との豊かな「かかわり」を育てる保育者としての役割と、視点に関する諸理論と実践的課題を学習する。	1 後	20	1	○				○		○
○		環境S	子どもの自然とのかかわりを深める保育の実践的指導能力を育成する。	1 前	20	1	○				○		○
○		言葉S	乳幼児期の言葉の発達過程を正しく理解する。	1 後	20	1	○				○		○

○		造形表現S	幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容の研究を行い、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力の養成を目標とする。	1 前	20	1	○	○	○										
○		障がい児保育S	子どもの脳及び心身の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害について理解を深める。	2 後	20	1	○		○										○
○		児童文化S	児童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握し、実習を行い、児童文化の分野の実践的な指導ができるようになることを目標とする。	3 前	20	1	○		○										○
○		相談援助S	保育士という専門職として、育児の相談や家族の問題への対応方法を学ぶ。	2 後	20	1	○		○										○
○		子どもの保健ⅡS	現代社会における心の健康問題やこどもの疾病と、その予防及び適切な対応について学ぶ。	3 後	20	1	○		○										○
○		子どもの食と栄養S	小児の発育・発達の特性、栄養に関する知識をふまえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、集団給食、食教育の重要性を理解することを目標とする。	2 後	20	1	○			○									○
○		社会的養護内容S	施設養護に焦点をあてて、各種児童施設における目的と機能、養護プログラムの展開、児童処遇の実態を理解する。	2 後	20	1	○		○										○
○		乳児保育S	保育園等における3歳未満児の保育についてその概念と意義を把握し、制度と現状を理解する。	3 前	20	1	○		○										○
○		青年心理学S	複雑な現代に生きる青年が、自分を見つめ、自己成長するために必要な、知識と方法の提供をめざす。	2 後	20	1	○		○										○
○		音楽表現S	よく歌われる童謡や手遊びなど、子どもを引きつける方法を修得する。	1 後	20	1		○	○										○
○		劇あそびS	イメージと動きのかかわりを体得する。幼児の動きの特徴を把握し、指導援助法を学ぶ。	1 後	20	1		○	○										○
○		保育・教職実践演習S	指導計画書の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技能を身につける。	2 後	20	1		○	○										○
○		保育実習事前事後指導Ⅰ(保育)S	特に指導計画書の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技能を身につけることを目的とする。	2 後	20	1	○		○										○
○		保育実習事前事後指導Ⅰ(施設)S	施設実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に実習計画書の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技能を身につけることを目的としている。	3 前	20	1	○		○										○
○		保育実習Ⅰ(保育)S	保育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとする。このねらいを達成するため、見学・観察を主とした実習を行う。	2 後	60	2		○		○	○								

○		保育実習Ⅰ (施設)S	児童福祉施設での保育を実践する。福祉施設の事を理解し、自分なりの目標を定め、実習に取り組む。	3 後	60	2				○	○	○		
○		保育実習ⅡS	保育実習Ⅰ(保育)Sでの体験を生かし、実際の保育園で指導を主とした実習を2週間を実施する。	3 前	60	2				○	○	○		
○		教育実習事前 事後指導S	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解し、各科目で習得した知識や技能と教育実践とを具体的に統合することによって意欲や課題意識を高める。	2 後	20	1	○			○		○		
○		教育実習①S	幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとする。このねらいを達成するために、見学・観察・参加実習を主とした実習を行う。	2 後	30	1				○		○	○	
○		教育実習②S	教育実習①Sでの体験を活かし、指導実習を主とした実習を行う。	3 前	90	3				○		○	○	
○		保育内容総論 S	「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み、保育の全体的な構造を理解する。	1 後	20	1	○				○			○
○		保育相談支援 S	保育相談支援の意義と原則について理解する。保育園等における保護者支援の実態について理解する。	2 後	20	1	○				○			○
○		言語表現S	子どもが使う非言語的表現の理解、言葉で伝えあい、言葉で遊び、言葉で考える面白さ、それらへの指導と援助方法を学ぶ。	2 後	20	1	○				○			○
○		保育実習事前 事後指導ⅡS	指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技能を身につけることを目的とする。	3 前	20	1	○				○		○	
合計					95科目		3,105単位時間(142単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
全科目の成績評価において不可の評価(評価点60点未満)がなく、年間出席時限数が年間消化時限数の85%以上であり学納金未納でないこと。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	20週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 1 - 2)

## 授業科目等の概要 選択必修科目「選択科目」

(教育・社会福祉専門課程 こども保育科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	コンピュータミュージック	コンピュータミュージックのソフトウェアに、既成の楽譜を打ち込みながら、楽譜の読み方などについても学習する。	全通	30	2	○	△		○			○	
		○	音楽	ピアノ演奏の基礎技能について学習する。	全通	30	2	○	△		○			○	
		○	イラスト表現	目的、テーマ、表現方法を考慮した上で、イラストレーション制作を行う。	全通	30	2	○	△		○			○	
		○	画像処理表現	画像処理ソフトウェアを使用し、それぞれの学生が自分で選んだテーマの作品を制作する。	全通	30	2	○	△		○			○	
		○	カラーコーディネイト	イメージを色で表現するトレーニングを積み重ねて実用的な色彩表現力を身につけることを目的とする。	全通	30	2	○	△		○			○	
		○	データベースアプリケーション	データベースソフトの「Access」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○	△		○			○	
		○	表計算アプリケーション	表計算ソフトの「Excel」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○	△		○			○	
		○	ビジュアルプログラミング	ビジュアルプログラミングの「Visual Basic」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○	△		○			○	
		○	ワープロ技法	ワープロソフトの「Word」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○	△		○			○	
		○	プレゼンテーション技法	プレゼンテーションソフトの「Power Point」を使いこなせるよう、学習していく。	全通	30	2	○	△		○			○	
		○	ホームページ作成	HTML言語を使用し、ホームページの基本的なホームページを作成する。	全通	30	2	○	△		○			○	



		○ コンピュータ会計	コンピュータ会計ソフトを使用し、基本的な精算表を作成する。	全通	30	2	○	△		○				○
		○ お金の知識	株式や企業会計、個人資産などの経済知識を学ぶ。	全通	30	2	○	△		○				○
		○ 公務員講座	公務員採用試験において実施される筆記試験の学習を行う。	全通	30	2	○	△		○				○
		○ 秘書講座	社会人としての知識・マナーを身に付ける。	全通	30	2	○	△		○				○
		○ 英会話	英語による会話に馴染み、結果として全体的に会話力を高めることを目標とする。	全通	30	2	○	△		○				○
		○ 中国語会話	中国語による会話に馴染み、結果として全体的に会話力を高めることを目標とする。	全通	30	2	○	△		○				○
		○ 資格取得講座	漢字検定 3 級以上合格を目指す。	全通	30	2	○	△		○				○
		○ ゼミナール	社会が求める専門性の高い分野や新技術などについて学ぶ。	全通	30	2	○	△		○				○
		○ 茶道	日本の文化である茶道を学び、一般教養を深める。	全通	30	2	○	△		○				○
		○ 書道	日本の文化である書道を学び、一般教養を深める。	全通	30	2	○	△		○				○
		○ 体育	自己の体による運動を正しく行えるようにする。怪我のない健康な体を運動により育む。	全通	30	2	○	△		○				○
合計				22科目	660単位時間(44単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全科目の成績評価において不可の評価(評価点60点未満)がなく、年間出席時限数が年間消化時限数の85%以上であり学納金未納でないこと。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。